

2021 年 度

シ ラ バ ス

理学療法学科 II部 3年

学校法人 福田学園

大阪リハビリテーション専門学校

OSAKA COLLEGE OF REHABILITATION

授業科目：	理学療法管理学		担当者	越智 久雄 他	
学科名：	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	2単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修
内 容	医療保険制度と介護保険制度を学習し、社会人として必要となる知識を修得する。				
到達目標	医療従事者に求められる倫理観を理解する。施設と人的資源の管理を理解する。				
授業計画：					
第1回 職業倫理 理学療法士の倫理と人間関係					
第2回 関係法規 秘守義務について					
第3回 医療施設における理学療法と職場運営					
第4回 施設基準・病院機能評価について					
第5回 医療施設における理学療法と職場運営 1					
第6回 医療施設における理学療法と職場運営 2					
第7回 管理・運営の実際 最近の医療制度の中で 1					
第8回 管理・運営の実際 最近の医療制度の中で 2					
第9回 介護保険制度における理学療法士の課題と役割 1					
第10回 介護保険制度における理学療法士の課題と役割 2					
第11回 介護保険制度における理学療法士の課題と役割 3					
第12回 介護保険制度における理学療法士の課題と役割 4					
第13回 管理・運営の実際 最近の医療制度の中で 3					
第14回 管理・運営の実際 最近の医療制度の中で 4					
第15回 管理・運営の実際 最近の医療制度の中で 5					
評価方法：					
出席状況 100%					
授業時間外の学習(予習・復習等)について					
復習:学んだことは確実に復習し、臨床で活かせる知識としておくこと。					
教科書：					
書名					
著者名					
出版社					
参考図書：					
書名					
著者名					
出版社					
留意事項：					
本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支					
援システム(Moodle)などを通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合があります。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。					

授業科目：	臨床ゼミナールⅢ			担当者	3年生担任 他
学科名：	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	2単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修
内 容	<p>(前期)長期臨床実習に挑む能力を確認、補充する。臨床実習Ⅰで学び経験した症例を取り上げ検討会を実施。必要な点を再確認する。</p> <p>(後期)長期臨床実習で経験した症例についてまとめ、症例研究(シングルケーススタディ)を行う。加え理学療法プロセスの習得について検証を行う。</p>				
到達目標	<p>①理学療法に関わる必要な知識、技術、思考を再習得する。</p> <p>②臨床実習等に関わる経験より、症例研究報告を行う能力をつける。</p>				
授業計画： 第1回 技術、知識、思考能力の確認と補充。(症例経験報告を含む) 第2回 技術、知識、思考能力の確認と補充。(症例経験報告を含む) 第3回 技術、知識、思考能力の確認と補充。(症例経験報告を含む) 第4回 技術、知識、思考能力の確認と補充。(症例経験報告を含む) 第5回 技術、知識、思考能力の確認と補充。(症例経験報告を含む) 第6回 技術、知識、思考能力の確認と補充。(症例経験報告を含む) 第7回 技術、知識、思考能力の確認と補充。自己課題の整理、まとめ。 第8回 症例研究 第9回 症例研究 第10回 症例研究 第11回 症例研究 第12回 症例研究 第13回 症例研究発表 第14回 症例研究発表 第15回 症例研究発表 まとめ					
評価方法： 前期50%：知識、技術、思考の整理(出席、課題提出)。 後期50%：実習経験症例研究(発表内容と出席)。					
授業時間外の学習(予習・復習等)について 継続した学習行動が要求されます。計画生もをもって時間外の取り組みも大切にして下さい。					
教科書： 書名 _____ 著者名 _____ 出版社 _____					
参考図書： 書名 _____ 著者名 _____ 出版社 _____					
留意事項： 課題の提出物、発表用レジュメ等も生じます。授業の参加に加え、案内既定に従い対応をしてください。 本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)などを通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合があります。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。					

授業科目：	国試対策ゼミナール			担当者	3年生担任 他
学科名：	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	4単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修
内 容	国家試験に関する集中講義、模擬試験、班活動学習、個人学習を行います。国家試験に求められる学習方法を理解し、個人、グループ学習を中心に進行します。適宜実施する模擬試験の結果を分析検証し、効果的に学習を進めます。(必要に応じて教室、実習室以外での遠隔授業運営をすることがある。)				
到達目標	理学療法士国家試験合格に到達できる知識と思考を獲得すること。				
授業計画：					
第1回 国家試験オリエンテーション1)					
第2回 国家試験対策 集中講義1)					
第3回 国家試験対策 集中講義2)					
第4回 国家試験対策 集中講義3)					
第5回 国家試験対策 集中講義4)					
第6回 国家試験対策 集中講義5)					
第7回 国家試験対策 集中講義6)					
第8回 国家試験対策 集中講義7)					
第9回 国家試験対策 集中講義8)					
第10回 国家試験対策 集中講義9)					
第11回 国家試験対策 集中講義10)					
第12回 国家試験対策 模擬試験1)					
第13回 国家試験対策 模擬試験2)					
第14回 国家試験対策 模擬試験3)					
第15回 国家試験対策 模擬試験4)					
第16回 国家試験対策 模擬試験5)					
第17回 国家試験対策 模擬試験6)					
第18回 国家試験対策 模擬試験7)					
第19回 国家試験対策 模擬試験8)					
第20回 国家試験対策 模擬試験9)					
第21回 国家試験対策 模擬試験10)					
第22回 国家試験対策 グループ活動1)					
第23回 国家試験対策 グループ活動2)					
第24回 国家試験対策 グループ活動3)					
第25回 国家試験対策 グループ活動4)					
第26回 国家試験対策 グループ活動5)					
第27回 国家試験対策 グループ活動6)					
第28回 国家試験対策 グループ活動7)					
第29回 国家試験対策 グループ活動8)					
第30回 国家試験対策 グループ活動9)					

授業科目：	国試対策ゼミナール			担当者	3年生担任 他
学科名：	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	4単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修
内 容	国家試験に関する集中講義、模擬試験、班活動学習、個人学習を行います。国家試験に求められる学習方法を理解し、個人、グループ学習を中心に進行します。適宜実施する模擬試験の結果を分析検証し、効果的に学習を進めます。(必要に応じて教室、実習室以外での遠隔授業運営をすることがある。)				
到達目標	理学療法士国家試験合格に到達できる知識と思考を獲得すること。				
第31回 国家試験オリエンテーション2)					
第32回 国家試験対策 集中講義11)					
第33回 国家試験対策 集中講義12)					
第34回 国家試験対策 集中講義13)					
第35回 国家試験対策 集中講義14)					
第36回 国家試験対策 集中講義15)					
第37回 国家試験対策 集中講義16)					
第38回 国家試験対策 集中講義17)					
第39回 国家試験対策 集中講義18)					
第40回 国家試験対策 集中講義19)					
第41回 国家試験対策 集中講義20)					
第42回 国家試験対策 模擬試験11)					
第43回 国家試験対策 模擬試験12)					
第44回 国家試験対策 模擬試験13)					
第45回 国家試験対策 模擬試験14)					
第46回 国家試験対策 模擬試験15)					
第47回 国家試験対策 模擬試験16)					
第48回 国家試験対策 模擬試験17)					
第49回 国家試験対策 模擬試験18)					
第50回 国家試験対策 模擬試験19)					
第51回 国家試験対策 模擬試験20)					
第52回 国家試験対策 グループ活動1)					
第53回 国家試験対策 グループ活動2)					
第54回 国家試験対策 グループ活動3)					
第55回 国家試験対策 グループ活動4)					
第56回 国家試験対策 グループ活動5)					
第57回 国家試験対策 グループ活動6)					
第58回 国家試験対策 グループ活動7)					
第59回 国家試験対策 グループ活動8)					
第60回 国家試験対策 グループ活動9)					

授業科目：	国試対策ゼミナール			担当者	3年生担任 他
学科名：	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	4単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修
内 容	国家試験に関する集中講義、模擬試験、班活動学習、個人学習を行います。国家試験に求められる学習方法を理解し、個人、グループ学習を中心に進めます。適宜実施する模擬試験の結果を分析検証し、効果的に学習を進めます。(必要に応じて教室、実習室以外での遠隔授業運営をすることがある。)				
到達目標	理学療法士国家試験合格に到達できる知識と思考を獲得すること。				
評価方法：	出席を含む学習状況、定期模擬試験、卒業試験にて評価、判断する。				
授業時間外の学習(予習・復習等)について	確実にステップアップし知識を積み上げていく必要があるため、グループ学習のみでは補えない不足する自己課題は、学外でその知識を補う自己努力を要します。必要な知識の整理、理解、記憶保持に終始努める必要があります。				
教科書：	後日調整、決定後通知します				
	書名				
	著者名				
	出版社				
	書名	国家試験対策コンテンツ			
	著者名				
	出版社	全国リハビリテーション教育協会			
参考図書：					
	書名				
	著者名				
	出版社				
留意事項：	<p>班員とともに長期にわたり学習を継続、反復する為、学習計画、学習習慣、実行力、体調管理を必要とします。</p> <p>本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)などを通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する可能性がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。</p>				

授業科目：	国試対策特論		担当者	専任教員	
学科名：	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修
内 容	<p>国家試験に関する集中講義、模擬試験、班活動学習、個人学習を行います。国家試験に求められる学習方法を理解し、個人、グループ学習を中心に進行します。適宜実施する模擬試験の結果を分析検証し、効果的に学習を進めます。(必要に応じて教室、実習室以外での遠隔授業運営をすることがある。)</p>				
到達目標	理学療法士国家試験合格に到達できる知識と思考を獲得すること。				
<p>授業計画：</p> <p>第1回 国家試験オリエンテーション1)</p> <p>第2回 国家試験対策 集中講義1)</p> <p>第3回 国家試験対策 集中講義2)</p> <p>第4回 国家試験対策 集中講義3)</p> <p>第5回 国家試験対策 集中講義4)</p> <p>第6回 国家試験対策 集中講義5)</p> <p>第7回 国家試験対策 集中講義6)</p> <p>第8回 国家試験オリエンテーション2)</p> <p>第9回 国家試験対策 集中講義7)</p> <p>第10回 国家試験対策 集中講義8)</p> <p>第11回 国家試験対策 集中講義9)</p> <p>第12回 国家試験対策 集中講義10)</p> <p>第13回 国家試験対策 集中講義11)</p> <p>第14回 国家試験対策 集中講義12)</p> <p>第15回 国家試験オリエンテーション3)</p>					
<p>評価方法：</p> <p>出席を含む学習状況、定期模擬試験にて評価、判断する。</p>					
<p>授業時間外の学習(予習・復習等)について</p> <p>確実にステップアップし知識を積み上げていく必要があるため、グループ学習のみでは補えない不足する自己課題は、学外でその知識を補う自己努力を要します。必要な知識の整理、理解、記憶保持に終始努める必要があります。</p>					

授業科目：	国試対策特論		担当者	専任教員	
学科名：	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修
内 容	<p>国家試験に関する集中講義、模擬試験、班活動学習、個人学習を行います。国家試験に求められる学習方法を理解し、個人、グループ学習を中心に進行します。適宜実施する模擬試験の結果を分析検証し、効果的に学習を進めます。(必要に応じて教室、実習室以外での遠隔授業運営をすることがある。)</p>				
到達目標	理学療法士国家試験合格に到達できる知識と思考を獲得すること。				
教科書：					
	書名	後日調整、決定後通知します			
	著者名				
	出版社				
参考図書：					
	書名				
	著者名				
	出版社				
留意事項：	<p>班員とともに長期にわたり学習を継続、反復する為、学習計画、学習習慣、実行力、体調管理を必要とします。</p> <p>本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)などを通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する可能性がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。</p>				

授業科目：	臨床実習 I	担当者	臨床実習指導者・専任教員	<input type="checkbox"/> 実務教員	
学科名：	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	3単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	臨床実習とは授業の一環であり教育の一環である。臨床の場で実際に対象者や指導者と関わり、関係性の中で学習する。				
到達目標	1) 対象者に興味を持つこと。 2) 理学療法に興味を持つこと。 3) 関わりを通して学習する経験をする事。 4) 理学療法過程の経験から理学療法士像を形成すること。 この4項目の到達を目標。				
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。				
授業計画：	(実習時間) 135時間				
	(実習方法) 臨床実習指導者(以下SVと略す)の援助の下、対象者と関わり、理学療法過程の一部分(評価から治療までの範囲で)を一つでも多くを経験させていただく。その経験から対象者の障害、および理学療法についての理解を深め学習を積み重ねる。				
評価方法：	行動評価内容(50%)、症例報告内容(50%)をもって合否判定する。必要な出席日数については、全行程日数の4/5以上が単位習得上に必須となる。				
授業時間外の学習(予習・復習等)について	日々自己課題、自己学習行動を明確にするための報告、相談を行い進行すること。				
教科書：	書名 著者名 出版社				
参考図書：	書名 著者名 出版社				
留意事項：	臨床実習中はもちろん、実習前の準備、実習終了後の整理を行う取り組みが臨床実習内容に大きく影響します。限られる学習時間を大切にすること。施設指導者、学内教員との連携を図ること。(報告・相談) ※臨床実習方法について、変更があった場合は、学内実習(対面・遠隔を含む)を想定します。変更があった場合は講義支援システム(Moodle)などを通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する可能性がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。				

授業科目：	臨床実習Ⅱ(医療施設外)	担当者	臨床実習指導者・専任教員	<input type="checkbox"/> 実務教員	
学科名：	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	2単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	臨床実習とは授業の一環であり教育の一環である。臨床の場で実際に対象者や指導者と関わり、関係性の中で学習する。				
到達目標	1) 対象者に興味を持つこと。 2) 理学療法に興味を持つこと。 3) 関わりを通して学習する経験をする事。 4) 理学療法過程の経験から理学療法士像を形成すること。 この4項目の到達を目標。				
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。				
授業計画：	(実習時間) 90時間				
	(実習方法) 医療および介護保険制度も時々刻々と変化を遂げており、理学療法に対するニーズも多様化している。このような中で医療施設以外での現場を経験し、各々の現場での役割や求められる能力を知り、経験学習を積む。理学療法士像が形成、再認識できるよう学習を反復する。				
評価方法：	行動評価内容(50%)、経験報告書提出内容(50%)をもって合否判定する。必要な出席日数については、全行程日数の4/5以上が単位習得上に必須となる。				
授業時間外の学習(予習・復習等)について	日々自己課題、自己学習行動を明確にするための報告、相談を行い進行すること。				
教科書：	書名 著者名 出版社				
参考図書：	書名 著者名 出版社				
留意事項：	臨床実習中はもちろん、実習前の準備、実習終了後の整理を行う取り組みが臨床実習内容に大きく影響します。限られる学習時間を大切にすること。施設指導者、学内教員との連携を図ること。(報告・相談) ※臨床実習方法について、変更があった場合は、学内実習(対面・遠隔を含む)を想定します。変更の連絡は、講義支援システム(Moodle)などを通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。				

授業科目：	臨床実習Ⅲ		担当者	臨床実習指導者・専任教員	<input type="checkbox"/> 実務教員
学科名：	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	8単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	臨床実習とは授業の一環であり教育の一環である。臨床の場で実際に対象者や指導者と関わり、関係性の中で学習する。				
到達目標	1) 対象者に興味を持つこと。 2) 理学療法に興味を持つこと。 3) 関わりを通して学習する経験をする事。 4) 理学療法過程の経験から理学療法士像を形成すること。 この4項目の到達を目標。				
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。				
授業計画： (実習時間) 360時間 (実習方法) 臨床実習指導者(以下SVと略す)の援助の下、理学療法を通し数週間に渡り対象者と向き合う経験をさせて頂く。 学生は必要に応じてSVの援助を受け、理学療法を通した対象者との関係性の中で臨床実習を進める。その経験の中で試行錯誤を繰り返し、対象者の障害を理解しようと継続的な関心と、興味に動機付けられた経験学習を反復する。					
評価方法： 行動評価内容(50%)、症例報告内容(50%)をもって合否判定する。必要な出席日数については、全行程日数の4/5以上が単位習得上に必須となる。					
授業時間外の学習(予習・復習等)について 日々自己課題、自己学習行動を明確にするための報告、相談を行い進行すること。					
教科書： 書名 著者名 出版社					
参考図書： 書名 著者名 出版社					
留意事項： 臨床実習中はもちろん、学内を含め実習前の準備、実習終了後の整理を行う取り組みが実習内容に大きく影響します。限られる学習時間を大切にすること。施設指導者、学内教員との連携を図ること。 (報告・相談) ※臨床実習方法について、変更があった場合は、学内実習(対面・遠隔を含む)を想定します。変更の連絡は、講義支援システム(Moodle)などを通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合があります。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。					

授業科目：	臨床実習IV	担当者	臨床実習指導者・専任教員	<input type="checkbox"/> 実務教員	
学科名：	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	8単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修
内 容	臨床実習とは授業の一環であり教育の一環である。臨床の場で実際に対象者や指導者と関わり、関係性の中で学習する。				
到達目標	1) 対象者に興味を持つこと。 2) 理学療法に興味を持つこと。 3) 関わりを通して学習する経験をする事。 4) 理学療法過程の経験から理学療法士像を形成すること。 この4項目の到達を目標。				
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。				
授業計画：	(実習時間) 360時間				
	(実習方法) 臨床実習指導者(以下SVと略す)の援助の下、理学療法を通し数週間に渡り対象者と向き合う経験をさせて頂く。 学生は必要に応じてSVの援助を受け、理学療法を通じた対象者との関係性の中で臨床実習を進める。その経験の中で試行錯誤を繰り返し、対象者の障害を理解しようと継続的な関心と、興味に動機付けられた経験学習を反復する。				
評価方法：	行動評価内容(50%)、症例報告内容(50%)をもって合否判定する。必要な出席日数については、全行程日数の4/5以上が単位習得上に必須となる。				
授業時間外の学習(予習・復習等)について	日々自己課題、自己学習行動を明確にするための報告、相談を行い進行すること。				
教科書：	書名 著者名 出版社				
参考図書：	書名 著者名 出版社				
留意事項：	実習中はもちろん、実習前の準備、実習終了後の整理を行う取り組みが臨床実習内容に大きく影響します。限られる学習時間を大切にすること。施設指導者、学内教員との連携を図ること。(報告・相談) ※臨床実習方法について、変更があった場合は、学内実習(対面・遠隔を含む)を想定します。変更の連絡は、講義支援システム(Moodle)などを通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合があります。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。				